

Souvenir は本当に「おみやげ」なのか？

松尾 徹

皆さんは知らない単語に出会うと、どの様にその単語を学習しているだろうか。知らない単語の場合は、まずその意味を調べるだろう。私が学生の頃は紙の辞書で意味を確認していたが、現在、大学生のほとんどがスマホを持っているので、スマホのアプリで意味を検索していると思う。試しに souvenir という単語を Weblio (オンラインの英和辞書) で意味を調べると「(旅行・場所・出来事などの思い出となるような) 記念品、みやげ」と書いてある。これを見た学習者の多くは () の中の意味はあまり注意深く読まず、単に「souvenir = みやげ」と学習するかもしれない。もちろん知らない単語を学習する最初の段階ではその英単語と対応する日本語訳で意味を確認することは当然のことであるし、その単語の形と意味をリンクする事は不可欠である。しかし、問題なのは souvenir がおみやげと全く同じように使えようと考えてしまうところである。

日本語のおみやげはどこかに旅行に行った時に他の人のために買うもので、本来自分のために買う物はおみやげとは言わない場合が多い。ところが、英語の souvenir は本来どこかに旅行に出かけて行って、その時のまたは、その場所の思い出として自分のために買うものである。(最近ではネイティブでも他の人に買う場合も souvenir を使う人もいるが) 従って、Weblioにあるように(旅先の思い出として自分のために買う)「記念品」という方がより正確な意味になる。

認知心理学で人間の認知過程を説明する概念の1つにスキーマがある。ある物事に関する知識について似たような例が集まると、それらに共通したものを抽出して一般的知識と捉えることができるようになる。この一般的知識をスキーマと呼ぶ。私たち日本人の多くがおみやげに関して持っているスキーマが「旅行で他人のために買うもの」、「キーホルダーのようなグッズ」それだけでなく、「現地の名前が入ったお菓子」などであると考えられている。

日本語を母語とする学習者が語彙を学ぶ際、その単語の形と日本語での意味を結びつける時に無意識にこのスキーマを当てはめていること、そしてその単語の日本語と英語のスキーマにはズレがあることを理解しないとその単語を正しく使うことができない。そのズレを理解するためにはその単語が文章の中で使われている例文にたくさん触れる中で実際にどのように使われているか、日本語と違いがないかを意識しないと身に付かない。

この作業はとても地味で時間がかかるが、学生にはこのスキーマの違いを面白いと感じて欲しい。また、ズレがあることを意識することで本当に使える語彙力を身につけて欲しいと感じる。

(まつお・とおる 准教授/教員養成センター)